



日本図書館協会より「感謝状」をいただきました

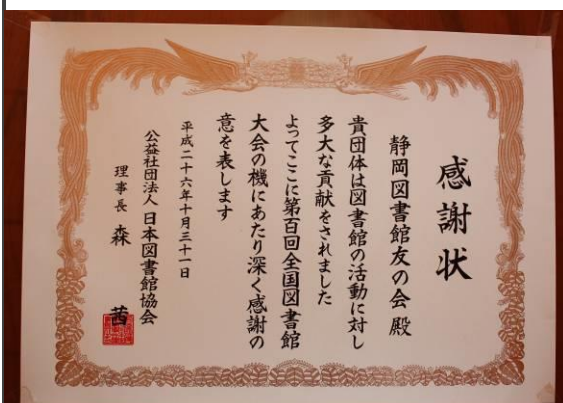
静岡図書館友の会 代表 田中文雄

静岡図書館友の会は 271 名の会員の皆様と共に、この 1 月、7 年目を迎えることができました。昨年 10 月、この 7 年の節目の前祝いのように日本図書館協会より「感謝状」をいただきました。これは日本図書館協会の「第 100 回全国図書館大会東京大会」開会式・全体会において「各地で図書館の活動を支援し、図書館文化の普及に牽引力となっている団体等に感謝の意を表し」全国すべての都道府県から 103 団体・個人に贈られたものです。静岡図書館友の会は静岡県内の「静岡県読み聞かせネットワーク」「静岡子どもの本を読む会」「浜松読書文化協力会」と一緒に選ばれました。

日本図書館協会は明治 25 (1892) 年、「日本文庫協会」としてアメリカ、イギリスに次いで、世界 3 番目の図書館人の協会として結成されました。日本の図書館を代表する全国

組織として、120 年間にわたり図書館の成長と発展に寄与する活動を続けている団体です。このような歴史ある団体より「感謝状」をいただいたことは本当に有り難いことだと思います。東京の明治大学駿河台キャンパス内・アカデミーコモンでの贈呈式舞台上に会員を代表して私が立たせていただきました。舞台上に溢れる 103 人を代表して佐賀県の「図書館フレンズいまり」が感謝状を受け取り、参加者の皆様からの祝福の大きな拍手に感激しました。今まで会員の皆様と「図書館を支える」活動を共にしてきた静岡図書館友の会が認められたことの証だと思います。これをきっかけにさらに活動を進めていきます。皆様よろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、県と市の図書館に対する「提言書」にご理解をいただきありがとうございました。



2014年度 事業 報告

1 全体

(1) 第6回総会と講演会

講演：「明日を考えると、未来を小説でつくること」 瀬名秀明氏 2月2日実施

(2) 「疎開した40万冊の本」上映会に協力 6月1日実施

(3) 関東地区公共図書館協議会総会(於：静岡の図書館支援活動)の報告 6月20日実施

(4) 第18回静岡県図書館交流会 4月27日実施

・基調講演：福山光幸氏「IT社会におけるプライバシーの課題と図書館について」

・「図書館の自由」「武雄市図書館問題」「福島の図書館」についての報告

(5) 第100回全国図書館大会 10月31日実施

・日本図書館協会より「図書館への支援活動」について感謝状を授与。

・「市民と図書館」分科会で「静岡の図書館協議会」の事例について報告

(6) 「静岡県立中央図書館の運営についての提言書」を提出 11月10日実施

2 学ぶ活動

(1) 第1回セミナー 「ビブリオバトルを楽しもう！」～ゲームで広がる読書の輪～8月17日実施

(2) 第2回セミナー 「図書館の世界へようこそ！」～絵本・映画の中の図書館～11月23日実施

(3) 函南町立図書館視察 3月6日実施

(4) 静岡市主催「公共施設のあり方を考えるシンポジウム」(清水テルサ・8月23日)に参加。

3 広める活動

(1) 会報の発行 年2回(第11号4月、第12号9月)

(2) ホームページの更新

4 支える活動

(1) 図書館充実のための支援：図書館協議会委員他関係者への資料提供と協議会傍聴

(2) しずとも基金：静岡市立図書館へ図書50冊の贈呈 541,814円 11月28日実施 累計3,102,502円(2010年から)

(3) 「図書館友の会全国連絡会」「としょかん文庫・友の会」など全国組織と県内各地の図書館友の会等との連携

(4) ブックリサイクル：古本市への協力 会員数：271人(2014年12月末現在)

2015年度 事業 計画

1 全体

(1) 総会・講演会(2月22日実施済)

(2) 静岡市立図書館の運営についての提言書提出(3月11日提出済)

(3) 第19回静岡県図書館交流会共催(6月20日)

2 学ぶ活動

(1) 図書館セミナー

3 広める活動

(1) 会報の発行 年2回

(2) ホームページの更新

4 支える活動

(1) 図書館充実支援のための働きかけ

(2) 静岡市立図書館への図書等の寄贈

(3) 会員の活動への支援・協力

(4) 他の図書館関連団体との協力

(5) 文化活動への協力

(6) 市民団体活動への協力・支援・後援

(7) 古本市への協力

静岡図書館友の会 2015 年度総会・記念講演会

総 会

静岡図書館友の会・運営委員 稲垣 洋子

○日 時：2015. 2. 22 (日) 13:00~13:50

○会 場：静岡県総合研修所もくせい会館 1階富士ホール

○参加者：50名

今年の総会は昨年よりも春に近い日、2月22日開催でした。

田中代表の挨拶の後、来賓の大澤眞明静岡市立中央図書館長からは図書館の必要性について具体的数値を挙げてのお話がありました。

第1号議案の事業報告では、昨年度行われた事業の映像を見ながら田中代表からの確な説明がありました。特に第100回全国図書館大会で感謝状を授与されたことと静岡県立中央図書館への提言書提出は特出すべきことと思えます。

第2号議案の2014年度会計及びしずとも基金決算報告、第3号議案の2014年度会計監査報告、第4・5号議案の2015年度事業計画および予算と滞りなく終わりました。

最後に、第6号議案役員改選では、新監事に

増田保子さん、新顧問に杉山佳代子さんが承認され、総会は終了しました

総会終了後、田中代表から「静岡市立図書館の運営についての提言書」に関する説明がありました。



総会風景

休 憩

記念講演会

静岡図書館友の会・運営委員 太田 典子

○ 講師：イリナ・グリゴレ さん

○ 講演題名：私の中に生きている本
～ルーマニアで育んだシュルレアリスム～

○ 参加者：76名

講師として紹介された壇上の若い研究者は、用意された原稿を落ちついた日本語で語り始めた。誠実で飾らないお人柄は第一声から感じられた。

ご自身の名前の「イリナ」は古代ギリシャ語では「平和」だそうでこの言葉から受ける具体的イメージは？と問われた。社会主義の厳しい環境にあった幼少期は、田舎の祖父母宅で育った。その彼女の平和のイメージは、子どもの頃の森や畑、駅から歩いた道や日差しであった。言葉とイメージの関係は、見えるものと見えないものの世界を自分の体で体験し、自然を愛し、尊敬し、畏れることではないか。なに人？ 何処から来たの？ に「地球人」と答えどんな世代、どこの国でも地球に生まれた命を考え物語



イリナ・グリゴレ さん

を語り続けると結ばれた。その時私にとって難かった副題の「シュルレアリスム」の敷居はグッと下がった。

その後この講演会の縁となった2014年9月号「図書」掲載の講師のエッセイを代表が朗読。会場での交流は、温かく今までにない講演会となった。そういえば彼女は研究者らしく今回の講演を「発表」と言っていた。予告された5月号「図書」が楽しみだ。

(※ イリナさんからエッセイ掲載は「図書」5月号と、訂正とお詫びがありました。)

第2回・図書館セミナー「図書館の世界へようこそ！」

静岡市立中央図書館 副館長 矢澤嘉章

静岡図書館友の会と中央図書館の共催事業である、図書館セミナー「図書館の世界へようこそ！」が、平成26年11月23日（日）に南部図書館の視聴覚ホールを会場に開催されました。

この事業は、講師に、児童文学者の草谷桂子氏と映画解説者の小澤正人氏をお招きし、副題に「～絵本・映画の中の図書館～」を掲げ、絵本や映画の中で表現される図書館について、それぞれの専門家によるお話と、図書館員によるブックトークを加えた3部構成での講演会となりました。

今回は、「図書館」をキーワードに、児童文学と映画という、それぞれ違うジャンルから各作品に登場する図書館の扱われ方や魅力について、専門のお立場から厳選された作品をご紹介します。

参加の皆さまからは、「大変よかった・よかった」との感想を多くいただき、ほぼ満足していただけた内容であったと思います。

絵本や映像の中に図書館がどのように描かれているのか、これまでと違う視点から見た図書館像について、「読んでみたいと思う本が何冊もあった」、「絵本は、子供向けと思ったが、奥が深く夢を与えてくれることを改めて知った」、「映画はあまり見ないが、今後注目する点の一つになった」、「解説を聞いて見るとぐっと興味が深くなりおもしろい」など、多くのご意見をいただき、新たな発見や興味が湧いたことが感じられ、図書館のさらなる利用に繋がるものと期待しているところです。

ただ、今回のセミナーでひとつ残念だったことは、映画に興味のある方、普段あまり図書館を利用されない方など、幅広い層の皆さまの参加を期待しておりましたが、結果として、40

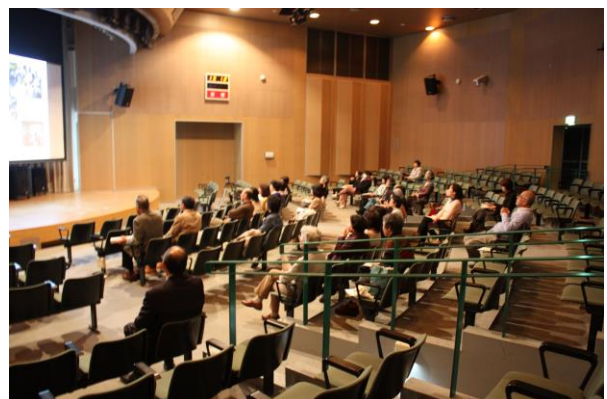
名の参加に止まってしまったことです。

祝日で三連休の中日ということもあり、行政や民間企業によるイベントが市内各所で多数開催される時期と重なったことが、参加者数に繋がらなかったのではないかと考えております。開催日やPR方法などによって、集客力に大きな差が出てしまうというイベントの怖さを改めて痛感しました。

少子高齢化や人口の減少、多機能携帯電話やタブレットによるインターネットの拡大など、図書館を取り巻く環境が変化していくなか、図書館は読書活動サービスはもとより、調査研究など課題解決の場やそのための情報・方法を提供する、市民にとって最も身近で利用しやすい教育機関です。

人々が生涯にわたって自主的に学習を行うための生涯学習・社会教育を推進する拠点施設として、その果たす役割は極めて大きいと思います。

今後も、図書館の存在・役割や活用について、様々な機会をとらえ、これまで以上にPRを行いより多くの市民の皆さまに図書館を利用していただけるよう努めてまいりたいと考えております。



会場風景

図書館で本が呼んでいる、待っている



静岡図書館友の会 副代表 山田健司



昨年3月、静岡新聞に「本や新聞を読む子は好成績」の記事[#]が報じられていた。家庭で本や新聞を読むよう親が勧める子どもほど全国学力テストの正答率が高い傾向にあるという。たしかに本などを読んで知り学び知識は高められる。だが気になるのは年収が高く親が高学歴の子どもほどテストの正答率が高いということだ。低所得の家庭の子どもは少し低いようだ。この格差をなくすにはどうするのか。

子どもの頃は国民学校だった。父は職人で母は和裁の内職をしていた。産めよ殖やせよの時代で長男に生まれて弟や妹をおんぶしてよく子守りを手伝った。家には本などなかった。学校の教室に本が少し置いてあったような気がするが、本との出会いも接点も皆無でほとんど記憶にない。

戦争が終わった翌年、城跡の東谷津山の麓の中学校は、戦災から免れて寄付金が少なかったので受験し入学した。校長室の隣りに図書室があったが利用できなかった。友だちができて遊びに行ったときなど本箱に並ぶ本を見て家庭環境のちがいに羨ましく思った。たまたま堀端の藝文庫へ行った。閲覧室は石造りのような階段を昇った二階にあったが入りづらかった。しばらくして学校図書館が別棟に新築されて自由に閲覧できるようになった。はじめて読んだのが佐々木邦のユーモア小説だった。それから何の目的も方針もたてずに、ただ手当たり次第感情の赴くままに本を読んだ。町には貸本屋や古本屋があったから立ち読みをした。乱読でいつもカバンのなかには本が入っていた。本へのスタートはこの頃からだった。

よく静鉄電車やJRを利用することが多い。長年の癖と習慣で短時間でも車内で本を読む。

この頃気になるのだが車内の景色が変わった。新聞を読んでいる人はいない。たまに読書をしている人を見ると懐かしく希少価値のように思えてならない。乗客のほとんどがうつむいて指をせっかちに動かしている。ネット社会で最近では本を読まなくなったが、新聞を取らない家庭が増えているらしい。そういえば先日、或るJR駅前で某大手新聞販売店が購読者拡張で宣伝チラシを配っていた。昔とちがって生活は豊かになり贅沢になり便利になったが、活字離れが進んでいるのだ。これはいま始まったわけではないが大きな問題でこの先がどうなるのか心配だ。

こういうご時世だからこそ、市は図書館行政を教育文化の重要な柱の一つに据えて、質的にも充実させて運営管理に当たってほしい。周辺の自然環境と溶け込んで文化の薫り高いまちとなっていけば、自然と人が集まり住みついてくるだろう。それはおのずと人口増につながりまちは発展していくことになる。図書館は地味で目立たないから軽視されがちだ。財源・予算・人事面で真っ先にその餌食になる傾向が強い。行政のなかでの弱い者いじめの対象になりやすい。ぜひみんなで守りサポートしていこう。

今日も図書館で本が呼んでいる。本は宝ものをいっぱい抱えて待っている。



[#] 平成26年3月28日(金) 静岡新聞夕刊



図書館から こんにちは

『初めてのブックトーク』

静岡市立南部図書館 澤田 隼一

平成5年度から開催している南部図書館講座「子どもの本を楽しむ」では、講座の最終回に図書館職員によるブックトークを行っています。毎年、児童サービス系の職員が担当しており、今年が私がお話させていただきました。

図書館職員ではありますが、今年度採用されたばかりで司書資格も持っていない私が、子どもの本に関心があり、経験も豊富な方々がたくさんいる前でブックトークが出来るのかどうか、とても不安でした。

日々どんなテーマにしようか模索していた時、ぜひ受講生の方々に紹介したい1冊の本に出会いました。それは、視覚デザイン研究所から昨年11月に出版された『しんかんせんでビューン』という絵本です。ストーリーとしては、子どもが一人で秋田から熊本へ新幹線に乗って行くという、とても単純なものです。しかし、その絵をよく見ると、鉄道好きでないと気付かないようなことま

で描かれていました。このことを知っていただき、色々な視点を通して興味のない方にも鉄道の本の世界を楽しんでもらいたいという思いから、この絵本を柱に「新幹線」というテーマでお話させていただきました。

結果としては……とてもいい反応をいただきました。普段は鉄道に関心のない方々でしたが、鉄道の本という新しい世界に興味を抱いていただけました。講座終了後には、紹介した本を何冊も借りたり、予約したりしていただき、とても嬉しく感じました。

今回の経験は、私に本に向き合う難しさ・楽しさ・おもしろさなどを教えてくれました。まだまだ本の世界に足を踏み入れたばかりの私ですが、ブックトークを通して初めて感じた気持ちを忘れず、これから図書館職員として頑張っていきたいと思います。

市内図書館ニュース

静岡市立中央図書館

「ぬいぐるみの図書館おとまり会」

中央図書館にて、2月14日・15日に「ぬいぐるみの図書館おとまり会」を開催しました。「ぬいぐるみの図書館おとまり会 (Stuffed Animal Sleepover)」は、アメリカの公共図書館で始まったイベントで、近年日本でも開催されてきています。

会場には1歳から10歳までのお子さん9名とその保護者が集まり、おはなし会を楽しんだ後、ぬいぐるみを寝かしつけて帰宅しました。中には寂しくなってしまうお子さんもいて、ぬいぐるみを抱きしめる姿に少し切なくなりました。翌日、ぬいぐるみをお迎えに来たとき、夜の図書館を冒険するぬいぐるみ達の写真をまとめたアルバムと一緒に「ぬいぐるみが本を選んでくれたよ」と言って本を渡しました。どのお子さんも興味津々

で、その場でさっそく読書する子どもや、ぬいぐるみに対して読み聞かせの真似をしている姿が見られました。アルバムを見て「この写真の場所を探してみようね」というやりとりも聞こえました。アンケートによると「より一層図書館が楽しい場所になった」「今まで以上にぬいぐるみを大切にしてくれると思うし本も好きになると思う」という意見が寄せられ、より図書館を身近に感じることができたのではないかと思います。



第100回全国図書館大会東京大会に参加して

静岡県読み聞かせネットワーク 副会長 勝山 高

静岡県読み聞かせネットワークは、主に読み聞かせ等の活動をしている県内96団体・個人の集まりであり、この度、期せずして図書館支援団体として表彰の栄を賜ることができた。

標記大会は二日間にわたり本の街御茶ノ水にキャンパスを持つ明治大学にて開催。一日目は全体会としてシンポジウム、翌日は延べ44の分科会・展示会が催された。

参加した第11分科会児童青少年サービスでは「読書が培う子どもの未来～児童図書館の力」をテーマに、全国府県の公共図書館3館と国際子ども図書館の事例報告を受け、松岡享子先生より講評・助言があった。

松岡先生の講評の中で、日本の図書館はハード面での充実はともかくとして、それを支える人材の育成という面では立ち遅れている。図書館が本来の機能を十分に発揮するためにも、今後はもっとそちらに力を注ぎたい由のお言葉があった。

確かに昨今の図書館は、財政難を理由に正規職員が削減され、非常勤という勤務体制が常態化しており、職員の疲弊も甚だしいと聞く。

図書館は、言うまでもなく知を醸成する基盤であり、育まれた力は、文化はもとより人が生きていく力の礎となり社会に花開く。職員問題も含め、広く市民の声を届けていくことが、まず我々にできることではないか。

ボランティアの中には、そのような活動は政治的なものとして捉え、敬遠される向きもあるがそれは大きな誤解であろう。図書館に望む姿を伝えることは、ボランティアの先駆性につながる大切な責務である。また、文化の担い手として次世代の子どもたちの読書環境を整える観点からも、図書館を育て励まし、時には具申していくことが大事ではないか。

図書館への夢をひとりでも多くの方々と語り合いたいと誓った全国大会であった。

～しずとも「ほっとコーナー」～



「日々、映画、是、好日」

静岡映画文化フォーラム 斉藤 隆

「映画」を毎日のように観ている。子供の頃から映画館通いが昂じて映画興行の会社に就職した。42年間、67歳で退職するまで勤務できたのは趣味が仕事であったからだ。退職後6年間で観た映画は2千本以上となる。“映画は映画館で観る”をモットーとしていたが、ほとんどがホームシアターでの鑑賞である。ここ数年来のデジタル技術の発達は凄まじい。映画も大きく様変わりしている。デジタル処理によって音も映像も鮮明だ。フィルムによる映画を観ることは至難だ。

映画の歴史は浅く、誕生して120年。産業革命後の大衆芸術として生れ、サイレントからトーキー、そしてカラーからワイドへと技術革新。今やデジタルへと変化している。

人は何故、映画を観るのか？ 旧石器時代の洞窟壁画にその原点がみられる。天才ダヴィンチの考案したカメラ・オブスキュラ。これから写真が生れ、映画へと続く。洞窟のすき間から射す一条の光が壁に映しだす外界の景色。馬、牛、鹿などの動物が壁に生き生きと描写されている。食べることに精一杯だった時代、人々は壁に絵を描き楽しんだ。この想像力が生活の中に豊かさや楽しみを生み、それが様々な芸術を生み出し、文化というものを形成する。人は決してパンのみに生きる者にあらずなのだ。現在、本来は文化の下僕であるべき経済が特出して優先され、人間的なものが後退している。だから、私は今日もまた、“映画、日々、是、好日”なのである。

提言書の提出について

静岡図書館友の会 運営委員 清 尚子

1 県教育長に静岡県立図書館の運営についての提言書を手渡しました (H26. 11. 10)

■ 県へ提言書を提出した理由

県立図書館の大切な役割の一つに市町立図書館の支援が挙げられます。財政難を理由に資料費や図書館員が削られている市町立図書館へ公立図書館としての使命や理念を普及し、足りない資料をネットワーク等で補い、研修や人事交流で図書館員を育てるなどです。しかし、ここ十数年間県立中央図書館の資料費は減り続け、県民一人当たりの蔵書冊数は全国でも下位に位置することがわかりました。防災や人口減少等大きな問題を抱えている現状を踏まえながら、それでも未来の静岡を思う時に今、提言しなければならないと考えました。そして、来年度の予算に反映していただく為に、緊急に提言書を作成し、思いを同じくする 23 の団体からも賛同を得て提言書を作成することにしました。

■ 熱心に耳を傾けてくださった県教育委員会

私たち 4 名は快く迎えられ、話を聴いていただきました。日頃のご支援への感謝を述べた後、司書の採用の事、資料費などの予算増額希望なども伝えることができました。

■ 速報！ 来年度の県立図書館充実のための予算が増えました

12 月定例会で天野一議員の質問「県立図書館について」に前向きな回答があり、期待していたところ資料費 1, 150 万円増と書庫整備費 1, 100 万円が 3 月の県議会で承認されました。これからの図書館政策の発展を意味することと大いに喜び感謝しています。

2 静岡市立図書館への提言書も作成

さて、皆さんが直接利用することが多い静岡市立図書館の現状はどうでしょう？

静岡市は人口一人当たりの貸出冊数や蔵書数が多く、先進的といわれますが、図書館員の非正規率が高いこと、非常勤職員の 5 年の雇い止め等、図書館の発展を阻む大きな問題があります。2011 年にも提言書を提出していて、私たちが常に図書館に関心を持ち、市民と共に歩む図書館を応援している事を再確認しています。

■ 田辺市長に「静岡市立図書館の運営についての提言書」を提出 (H27. 3. 11)

静岡図書館友の会役員 6 名が教育部長、中央館長、同副館長が同席される中、市長と会見しました。まず、代表が資料をお渡しし、提言の趣旨を説明しました。市長は誠意をもって聞いてくださり、私たちから直営の継続と図書館員の力量が発揮できるようなシステム作りをお願いすると「行政のスリム化という言葉があるがやせぎすになってはいけない。シェイプアップで削るところは削り、出すところは出す」と例え、教育文化などが手厚くする部分にあたと仰いました。

併せて市内全戸に配布された「アセットマネジメント」のパンフレットに民間活力導入の例として「図書館カフェ」が載っている事への懸念もお伝えし、提言書を活かした図書館政策で、更に文化を大切にしたい活気あるまちにしていく様お願いして会見を終えました。

静岡図書館友の会会報 No.13 2015. 3

静岡図書館友の会 代表 田中 文雄

連絡先：(携帯) 080-6910-9434 (月一金/10-15 時)

Eメールアドレス：sizutomo2008@yahoo. co. jp

ホームページアドレス：http://www4. tokai. or. jp/sizu. tomo/

(会員数) 271 人：2014 年 12 月現在

(表紙イラストデザイン：J.T)

編集後記

- ・木々の【一木一花】(木は開花時、まず 1 輪だけが咲く)に出会う度毎、自然の不思議に脱帽。しずとも 7 年目の春です。(J.T)
- ・3 月と言えば東日本大震災。阪神淡路大震災からわずか 16 年後の出来事。今は災後ではなく災間という。風化するのはまだ早い。(T.Y)
- ・“光陰矢の如し、今頃月日の経つのがなんと早いものか。自分がやらねばならぬことは何か、自問自答の毎日です。(H.H)
- ・日一日と暖かくなり、菜の花がたくさん咲いています。満開の見頃を迎えたのは、とても黄色くて綺麗です。(Y.N)